

※個人や企業が特定される部分、業務内容に関わる部分についてはCeFILで一部修正しています。

	ご意見・ご感想	対応
1	プログラミングスキルを磨く経験を、学生の間により積んでおいたほうがよいと思います。自主的な活動も含め、成果をあげる点については、よい振る舞いができるマインドを保有しています。まずは多くの優れたプログラムに触れ、パターンや回避策を学び、突発的な問題に対する問題解決の引き出し(=ナレッジ、アイデアの源泉)をできるだけ多く獲得してほしいと思います。 その上で、実体験として日本人以外の優れたエンジニアとの接触もあったと思いますから、エンジニアとして大成する意味でも英語の重要性は身にしみたと考えています。是非、これを機に英語力についても身につけるべく、学習してもらえると嬉しいです。	
2	開発タスクのみならず、社内における各種の会にも自主的に参加していただきました。また、スケジュール管理やプレゼンなども行ってもらったため、技術の他にも学びがあったのではないかと存じております。	
3	学生の修士研究内容よりもPBLでの活動内容の方が業務内容とマッチしていた。今後は研究内容のみでなくPBL等他の活動内容も事前に展開してもらえるとやりやすいかもしれない。	インターンシップ応募フォームにPBLの取り組み内容も書けるよう検討します。
4	基本的な技術の知識については持ち合わせているので、それをどのように業務にいかしていけるか(応用できるか)と言った点をトレーニングすることで、必要とされる技術者になれると思います。また、JavaやJSだけでなく、いろんな開発言語やフレームワーク、DBについての知識も学ぶことで、仕事の幅も広がると思います。	
5	受け入れ担当では1人の実習生しか見られないので、他部署や他企業の場合にはどのような体験や学びが得られるのか気になります。CeFILのインターンシップ全体の報告書がまとまっていたり、参画した実習生を集めて成果発表するようなシンポジウムがもしあるようでしたら、今後の受け入れテーマや実施内容を検討する上で参考にしたいと思っています。	CeFILインターンシップ全体報告書は差し支えない範囲で公開・共有します(実施中)。
6	新技術の紹介をした際に、興味深げに話を聞いており、自身の意見を言う姿が大変熱心であったことが印象的でした。	
7	短い期間でありましたが、インターンの学生を受入れ、指導する立場でのスキルアップを図ることができた。また、部内のメンバと交流を図り、部内の活性化に繋げることが出来た。	
8	日本語は流暢ではない中、業務の専門用語等が飛び交う中で一生懸命キャッチアップしようとする姿が印象的でありました。	
9	様々な役割および部署の社員と接する機会を設けた中で、視点の違いや企業におけるマナーやコミュニケーションの重要性を体感したのではないかと思います。	